

2018年度 一般選抜(前期日程) 国語 出題のねらいと  
解答例

出典

齋藤純一『不平等を考える―政治理論入門』、筑摩書房

出題のねらい

語句の意味・用法などを理解したうえで使いこなす能力、文章の構成や表現の特色を捉える分析力、論理の展開や要旨を的確に読みとる理解力、内容全体を総合的にまとめる論理力、論理的な構成を工夫して文章にまとめる構成力を測っている。

今年度の問題では昨年度までと同様、長文を読ませ、これに基づいて語彙や文法などにかかわる基礎知識を問うとともに長文の記述問題を出題した。

解答例

問題Ⅰ(配点20点)

問一

- (ア) しいてき (イ) さくしゅ (ウ) おちい (エ) いちじる  
(オ) ひんきゅう

問二

- (い) 生涯 (ろ) 屈辱 (は) 干涉 (に) 抗 (ほ) 恒常  
(へ) 参照 (と) 甚大 (ち) 貢献 (り) 熟慮 (ぬ) 序列

問三

- (i) 奨励 (ii) 無視 (iii) 実践 (iv) 侵害 (v) 容易

問題Ⅱ(配点55点)

問一

- あ 5 い 4 う 2 え 3 お 2

問二

4

問三

1

問四

3

問五

4

問六

2

問七

5

問八

社会的・経済的な側面において運に恵まれた人がそうでない人々に支援の手をさしのべると、たとえ財の再分配による補償によって社会的・経済的格差が縮小したとしても、その補償による優劣の関係性が、感情的側面としての自尊を損なうという矛盾を生むから。(119字)

問九

正当化しえない不平等の要因には、非自発的に与えられる集合的なカテゴリーに基づく不平等もあり、それに対して生じる優劣関係は現に社会で妥当している規範となっているため、個人に対する補償だけでは、根本的な不平等を解消することはできないということ。(120字)

問題Ⅲ (配点25点)

評価方法

文章の明快さ、語句の適切な使用、概念の理解、記述の論理性などを総合して評価する。

以上